群馬県大学図書館協議会

会報

からっ風通信

2013 第30号

発行―2013年8月31日
http://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp
編集―群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会　前橋市荒牧町4-2（群馬大学総合情報メディアセンター内）　TEL.027-220-7167

群馬医療福祉大学
Gunma University of Health and Welfare

CONTENTS

■ 研究会報告　平成24年度第２回大学図書館研究会 ―― 2
■ トピックス ―― 13
■ 編集後記 ―― 14

研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修
（群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会　共催）

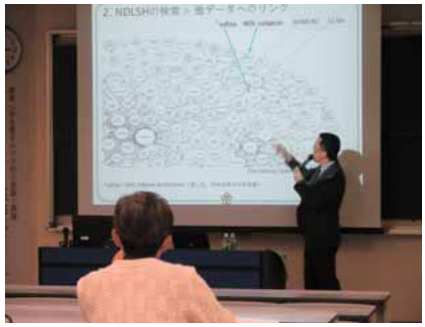
○平成２４年度第２回

テーマ：「件名標目の今日的な意義と課題」
日　時：平成２５年３月８日（金）１４時００分～１６時３０分
場　所：群馬大学（荒牧キャンパス）教養教育GC棟　301教室（視聴覚教室）
参加者：２３名（大学図書館２１名、公共図書館２名）
講　演：「件名標目の今日的な意義と課題　― NDLSHを例として ―」
国立国会図書館　収集書誌部収集・書誌調整課　課長補佐　大柴　忠彦 氏

【概要】 件名標目の今日的な意義と課題について、国立国会図書館件名標目表(NDLSH)を例に説明があった。まず、セマンティック・ウェブ対応を視野に入れ、NDLSHをLinked Dataとして提供する国立国会図書館の新しいシステムWeb NDL Authoritiesの紹介があった。次に、NDLSHの維持管理について、特に、標目新設のプロセスについて紹介があり、併せて米国議会図書館件名標目表(LCSH)及び日本図書館協会による基本件名標目表(BSH)との連携（NDLSHとの統合）について触れられた。そして、最後に、NDLSHに係る今後の課題と将来展望について説明があった。
これまで、NDLSHが必ずしも他機関の「知」の主題アクセスポイントになっているとは言い難い、との自己評価から、国立国会図書館では、転換点となる2004年の改訂作業がスタートする。改訂方針としては、これまでなかった①シソーラス化：「をも見よ」参照の導入、シソーラス構造(BT,NT,RT)の入力、②語彙の増大：語彙を積極的に新設、「を見よ」参照の充実、③汎用性の確保：適切な言葉の採用、NDC9版分類記号の入力、BSH,LCSHとの連携、④ルールの明示：スコープノートの充実、「国立国会図書館件名作業指針」の作成・公開、等により「活用されるNDLSH」を目指したとのこと。また、NDLSHの汎用化の課題として、現在、児童書、ムック等を除く和図書のみとした付与対象を拡大する必要性について、また、複雑で利用者にとって難解な細目を結び付けていく事前結合方式の妥当性についても言及された。

参加者の意見等

これまで、研究会では、「分類」「目録」、そして今回の「件名標目」と図書館業務のベースとなるテーマを取り上げてきたが、研究会のテーマについては、参加者を考慮して、講演中心の説明解説的な「より専門的なテーマ」と演習中心の実務的な「より一般的なテーマ」とを交互に実施したらどうかとの意見もある。今回のテーマ「件名標目」については、参加者の声にも、「難しいテーマ」「インターネット時代に今更件名か」と言った事前の印象から、「件名標目（NDLSH）を新しい目線で見ていく良い機会になった」「業務に活用できそう」「利用者にどう紹介していくべきか考えていきたい」「実務に大変役立つ情報が得られた」等々の変化が見られ、「より専門的テーマ」採用の妥当性が裏付けられた。出来れば、他館種とも日程調整し、より多くの参加者にもこうした「件名標目」についての「偏見」を払拭していただけたら良かったのではと悔やまれた。



件名標目の今日的な意義と課題
ーNDLSH を例としてー

平成25年3月8日
平成24年度 第2回大学図書館研究会・
群馬県図書館協会専門研修

国立国会図書館
収集書誌部収集・書誌調整課
大柴 忠彦

はじめに

件名標目の今日的な意義と課題について、
NDLSHを例として、Web NDL Authoritiesの
活用やNDLSHの維持管理等を踏まえながら、
皆さんと一緒に考えてみたい

2

はじめに

1. Web NDL Authorities
2. NDLSH検索： Web NDL Authoritiesの活用
3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて
4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に
5. NDLSHの実務と維持管理
6. 件名標目の今日的な意義と課題

おわりに

3

---

1. Web NDL Authorities

4

---

1. Web NDL Authorities

国立国会図書館典拠データ
検索・提供サービス
（Web NDL Authorities）
http://id.ndl.go.jp/auth/ndla

・2012年1月本格提供（2011年7月開発版公開）
・Web上でのNDL典拠データの検索・提供
・セマンティックウェブ志向

5

---

1. Web NDL Authorities

Web NDL Authorities ＝
Web NDLSH（2010年6月～2011年7月）
＋
NDL名称典拠（2011年7月開発版～　）
→ すべてのNDL典拠ファイル
＊NDLSH も Web NDL Authorities から検索・提供

6

---

1. Web NDL Authorities ＞ データ件数

個人名	村上, 春樹, 1949-	784,896
家族名	徳川（家）	2,169
団体名	群馬大学教育学部	183,769
統一タイトル	今昔物語	3,941
地名	群馬県	27,305
普通件名（細目付きを含む）	温泉--群馬県	101,040
細目	--辞書	323
合計		1,103,443
NDLSH収録対象 普通件名及び一部固有名（国名等）		19,197

（2012年12月末現在）

7

---

1. Web NDL Authorities ＞ 特徴

・NDLが維持管理する典拠を一括して検索・提供
・Web上のアプリケーション等から、システム連携により典拠データを利用可能
・国立国会図書館サーチと連携し、付加価値のある検索が可能

8

1. Web NDL Authorities ＞ データモデル

・個々の典拠レコードへのURI付与

・ダブリンコア、FOAF等Webの標準的な語彙を使用
特に、NDLSHデータには、SKOS（Simple Knowledge Organization System）を使用

・RDFによる記述

9

1. Web NDL Authorities ＞ データモデル

10

1. Web NDL Authorities ＞ 検索・リンク・データ利用

・標目語、参照語、分類記号（NDC、NDLC）による検索

・VIAF、LCSH、ウィキペディア等へのリンク

・個別レコードのダウンロード
　　形式：RDF/XML；RDF/Turtle；JSON

・SPARQLによる外部システムとの機械的連携

11

1. Web NDL Authorities ＞ NDLSHの検索・提供

＊特にNDLSHについては

・シソーラス構造（上位語、下位語、関連語）による参照リンク及びそのグラフィカル表示

・全件一括ダウンロード用ファイルを用意
　　RDF/XML形式、TAB区切りテキスト形式

・新設件名標目のRSS配信

12

2. NDLSH検索： Web NDL Authoritiesの活用

13

2. NDLSH検索： Web NDL Authoritiesの活用

14

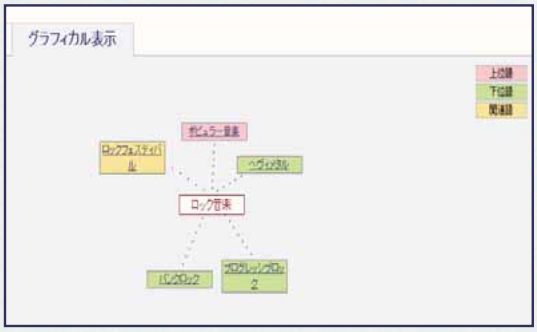
2. NDLSH検索： Web NDL Authoritiesの活用

15

2. NDLSH検索 ＞ 相互参照

16

2. NDLSH検索 > 相互参照 > グラフィカル表示



2. NDLSH検索 > 国立国会図書館サーチを検索

2. NDLSH検索 > 事前結合方式（細目の結合）

2. NDLSH検索 > 事前結合方式 > 地域で絞り込む

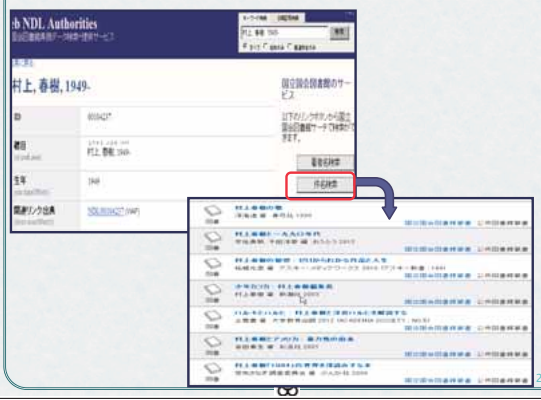
2. NDLSH検索 > 事前結合方式 > 地域で絞り込む

2. NDLSH検索 > 事前結合方式 > 地域を主題で絞り込む

2. NDLSH検索 > 事前結合方式 > 時代で絞り込む

2. NDLSH検索 > 事前結合方式 > 副次的な主題で絞り込む

2. NDLSH検索 ＞ 人名等の固有名件名の検索



25

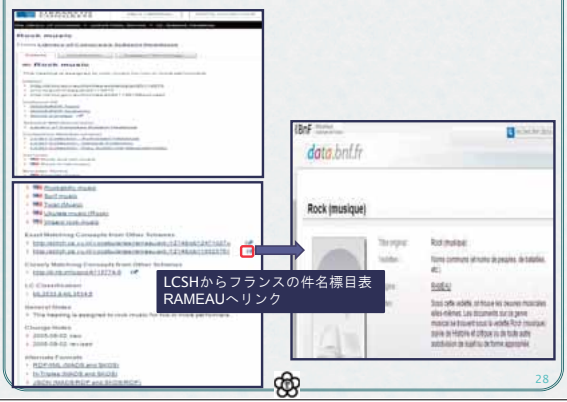
2. NDLSHの検索 ＞ 分類記号からの検索

26

2. NDLSH検索 ＞ 他データへのリンク

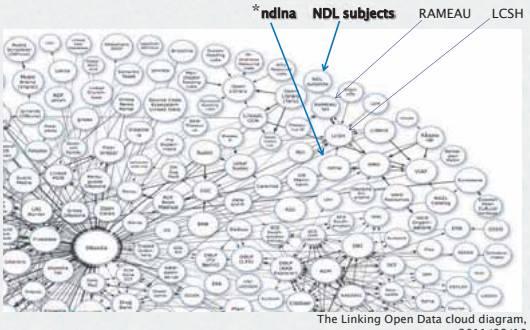
27

2. NDLSHの検索 ＞ 他データへのリンク



28

2. NDLSHの検索 ＞ 他データへのリンク



The Linking Open Data cloud diagram, 2011/09/19

*ndlna：NDLのName Authorities（個人名、団体名等の名称典拠）

29

3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて

・表記が異なっていても、同じ意味の主題をひとつにまとめて検索

・表記が同じでも、意味が異なる主題を区別して検索

例）

30

3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて

・タイトル中の主題の表記方法や有無に係らず検索　例）→

・関連語彙の相互参照によるナビゲート

例）ロック音楽 ⇔ パンクロック

31

3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて

・事前結合方式（細目の結合）の利点

地域、時代、形式等の側面から主題を絞り込み

≪結合順序について、利用者は検索する際に必ずしも事前に知っておく必要はありません。たとえば、「遺跡・遺物」というキーワードは、検索時にはなかなか思いつかないかもしれません。……とりあえず「アフガニスタン」と入力してみれば、事前には思いつかなかった「アフガニスタン--遺跡・遺物」という用語の結びつきへとナビゲートしてくれます。あるいは、ひとたび「シミュレーション」と検索すれば、さまざま事柄についてのシミュレーションを表すキーワードへとナビゲートしてくれます。≫

「事前結合方式―件名標目の可能性の中心」
（NDL書誌情報ニュースレター 2009年4号掲載）
http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/2009_4/index.html#06

32

3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて

・分類記号との連携による多面的な主題検索
・NDC9版の相関索引としても活用可能

・LCSHによるNDLSH検索、NDLSHによるLCSH検索
・多言語主題検索の可能性

33

3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて

・NDL内での汎用化：NDLSH適用資料群の拡大

現在、NDLSH付与対象資料は和図書のみ
和図書でも児童書、ムック等は付与対象外
洋図書（かつては付与対象）、逐次刊行物、音楽映像資料、電子資料、地図資料等は付与対象外

Web NDL Authorities→国立国会図書館サーチで
NDLSH検索できるのは和図書の一部のみ

34

3. NDLSHの意義と課題： NDLSH検索を踏まえて

・国内における汎用化

「国立国会図書館サーチ」(NDL Search)は、国立国会図書館の新しい検索サービスです。国立国会図書館をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が持つ豊富な「知」をご活用いただくためのアクセスポイントとなることを目指しています。
2012年1月6日に正式サービスとなりました。

国立国会図書館サーチ トップ画面

NDLSHが、他機関の「知」の主題アクセスポイントになっているとは言い難い

35

休憩

36

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

（前史）
冊子体『国立国会図書館件名標目表』
第1版　昭和39年（1964 年）
第2版　昭和48年（1973 年）
第3版　昭和55年（1980 年）
第4版　昭和61年（1986 年）
第5版　平成 3年（1991 年）
年ごとに新設標目のお知らせ

37

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

2003年 10月～　方針検討
2004年　1月～　改訂作業スタート
9月　書誌調整連絡会議「件名標目の現状と将来―ネットワーク環境における主題アクセス」
2005年　6月　2004年度版公開
年度ごとにPDFによる提供
月ごとに新設標目のお知らせ
2006年　9月　シソーラス化終了
テキストデータによる提供
2007年　3月　全改訂作業終了

38

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

2009年 11月　書誌調整連絡会議「日本の件名標目表：BSHとNDLSHの連携・その先へ」
2010年　6月～　Web NDLSH公開
一括ダウンロードファイルの提供
「RDF/XML形式」「TSV形式」
PDF版は「2008年度版」で終了
2011年　7月～　Web NDL Authorities 開発版
2012年　1月～　Web NDL Authorities 本格提供
新設件名標目のRSS配信開始

39

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

・ターニングポイント ＝ 2004年NDLSH改訂
「国立国会図書館件名標目表の改訂について」
http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndlsh.html

・これまでのNDLSHにおける問題点の解決
標目を積極的に新設しない、用語が古い、
「をも見よ」参照欠如、「を見よ」参照不足、
ルールが不明等

・「基盤」の整備

40

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

改訂方針　①シソーラス化

②語彙の増大

③汎用性の確保

④ルールの明示

41

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

①シソーラス化

・これまでなかった「をも見よ」参照を導入

・シソーラス構造（BT・NT・RT）を入力

例）美術　BT：芸術
NT：古代美術、美術（東洋）…
RT：デザイン、美術家 …

42

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

②語彙の増大

・新設基準見直し

→積極的に新設

・「を見よ」参照の充実

1998年度	48
1999年度	42
2000年度	39
2001年度	333
2002年度	57
2003年度	204
--2004改訂--	
2004年度	530
2005年度	362
2006年度	378
2007年度	395
2008年度	424
2009年度	817
2010年度	439

新設件名標目数の推移

43

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

③汎用性の確保

・適切な言葉を採用

・NDC9版分類記号の入力

・BSHとの連携

・LCSHとの連携

44

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

④ルールの明示

・スコープノートの充実

例）

標目	花卉栽培
同義語	花卉園芸; 草花栽培; Floriculture; Flower gardening
注記	地理区分 (200404-); 花卉栽培一般について使用. 個々の花卉の栽培については細目「栽培」を使用 (例: 菊 -- 栽培)

・マニュアルの公開

→「国立国会図書館件名作業指針」の作成・公開

45

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

・地理区分の制限緩和

・細目結合順序の整理

主題細目 -- 地名細目 -- 時代細目 -- 形式細目

例）美術 -- 日本 -- 歴史 -- 昭和時代-- 図集

東日本大震災 (2011) -- 被害 -- 宮城県 -- 気仙沼市 -- 写真集

46

4. NDLSH概史：2004年改訂を中心に

・遡及的に見ると、2004年改訂は、Web NDLSHを経てWeb NDL Authoritiesへ至るNDL典拠データの新しい提供方法を実現するための「基盤構築」であったともいえる

・2004年改訂があったからこそ、NDLSHの新展開を実現でき、また、今後の更なる展開を企図できる

47

5. NDLSHの実務と維持管理

・「国立国会図書館件名作業指針」

・2004年改訂を踏まえNDLホームページで公開

・これまでの「暗黙知」の顕在化

・新たなルールの作成

・全般から主題別までのNDLSH作業マニュアル

48

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 主題分析

全般　件名標目付与指針

件名標目の付与

- 資料の主題を把握し、その資料全体の主題を適切に表現する件名標目を付与する。
- 資料の内容を分析する際には、以下のような情報を手がかりとする。

・タイトル
・目次
・序文、後書き、解説文
・帯・カバー等
・本文
・同一著者のその他の著作
・資料中の参考文献
・参考図書、インターネット情報（以下、参考図書類）
・類似した資料への件名標目付与実績

- 資料の内容を分析した上で、その内容全体を最もが簡に要約して表す件名標目を選択して付与する。あるいは、資料の中で最も重要なトピックに対する件名標目を選択して付与する。
- つまり、個々の細かい内容やトピックについて個別に件名標目を付与するのではなく、資料全体として「何について書かれているか」を把握して、件名標目を付与する。

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 相互参照の基準

【階層関係(BT、NT)の基準】

(1) 階層関係の原則

- 同一カテゴリーにおける件名標目の、直近の上位語(BT)、下位語(NT)とする。

注:カテゴリーとは、ここでは、件名標目の示す概念を分析して得られる属性(本質的な性質)を意味する。カテゴリーには具象的なものもあれば、抽象的なものもある。たとえば、「生物」「物」「行為」「事象」「場所」「学問分野」等。

例:「模倣」は[行為]のカテゴリーに属する

同一カテゴリーにおける関係とは、基本的な属性を共有する件名標目同士の関係といえる。

例:「イチョウ」と「サメ」は[生物]という属性を共有する

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 細目の結合順序

【主標目が地名以外の場合】※実線は必須の要素、破線は必須ではない要素を表す。

①主題	②主題細目	③地名細目	④「歴史」＋時代細目	⑤形式細目
(主標目／主標目＋特殊細目)	(主題細目／主題細目＋二つ目に使用できる主題細目)※主題区分時に細目として結合する件名標目も含む	※直前の要素が地理区分可の場合のみ		

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 細目の結合順序

- なお、地域性が優先される場合は以下の順序となる。

地名 -- 地名のもとの細目 -- 時代細目 -- 形式細目

例
アフガニスタンの政治
件名標目　アフガニスタン -- 政治

19 世紀アフガニスタン政治史
件名標目　アフガニスタン -- 政治 -- 歴史 -- 19 世紀

- また、[主題] -- [主題細目] という結びつきについては、おおむね、[事物・具象] -- [過程・行為] という順序に則している。

例
気候変化 -- シミュレーション
都市計画 -- シミュレーション

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 主題別

哲学

- 古典的哲学書(おおむね 20 世紀初頭までのもの)については、主題が容易に把握できない場合には、件名標目を付与しなくてもよい。

例

タイトル/著者	論理学 / ヘーゲル
件名標目	論理学
タイトル/著者	方法序説 / デカルト
件名標目	(付与しない)

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 主題別

年齢層

【若年層】
- 「児童」「少年」「青年」はおおむね以下の年齢集団を指すものとする。

「児童」→小学生
「少年」→小・中学生
「青年」→高校生から 20 代前半くらいまで
(「青少年」は「青年」＋「少年」)

- ただし、過度に厳密な運用はしない。
- 例えば、主として小学生に相当する年齢集団を主題にしているが、厳密に小学生だけに限定できない内容でも(幼児、中学生が含まれうる場合でも)、「児童」を使用できる。

【「小学生」等との使い分け】
- 件名標目「小学生」「中学生」「高校生」は学校生活、学校教育、教育制度(義務教育、学制等)等の観点で扱われるものに限定して使用し、同程度の年齢集団であってもこの観点に限定されない場合は「児童」「少年」「青年」「青少年」を使用する。

【中高年齢層】
- 「中高年齢者」「高齢者」はおおむね以下の年齢集団を指すものとする。

「中高年齢者」→65 歳未満
「高齢者」→65 歳以上

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 件名標目の新設

【件名標目の新設】
- 既存の件名標目では表せない主題については、件名標目の新設を行う。
- 件名標目を新設するに当たっては、原則として参考図書類による概念規定を前提とする。(当作業指針「普通件名新設時の参考図書類」を参照。)また、既存の件名標目との使い分けが可能か、参照追加・件名標目の訂正で対応可能かを検討した上で新設する。
- 件名標目として採用する語は、原則としてその概念を表す代表的な名辞とし、参考図書類での扱いを参考に決定する。
- 件名標目新設の際には、代表分類を選定し、必要に応じて「を見よ」参照、「をも見よ」参照の指示を行う。また、既存の件名標目の「をも見よ」参照等に訂正が必要かを確認し、必要な場合は訂正を行う。

「国立国会図書館件名作業指針」

5. NDLSHの実務と維持管理 ＞ 件名標目の新設

和図書目録作業において、
①目録作業者が目録対象資料の主題分析を行う
②分析により把握した主題に相当するNDLSHを付与する
③把握した主題に相当するNDLSHが存在しない場合（当該主題の書誌データ実績が概ね5件あれば）、

→ NDLSH新設へ

5. NDLSHの実務と維持管理 > 件名標目の新設

④目録作業者がNDLSH新設を提案する
　このとき、提案者が、用語の選定、シソーラス構造への位置付けなどを行う
⑤NDLSH担当専門班が提案の内容を精査し承認する
⑥目録作業者が新規件名典拠データを作成する

57

5. NDLSHの実務と維持管理 > 件名標目の新設

・ふたつの意味での「文献的根拠」 literary warrant に基づく
　①目録作業の対象となる「資料に出現した主題」
　②「参考図書類」（用語の選定・概念把握など）

・NDLSH（件名標目）は目録作業の中で培われる

（参考）
「NDLSH メイキング―件名標目新設の現場」
（NDL書誌情報ニュースレター 2009年3号掲載）
http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/2009_3/index.html#08

58

5. NDLSHの実務と維持管理 > LCSHとの連携

・2004年改訂により、個々のNDLSHに対応するLCSH（文字列）を参照形として入力

・2009年8月からLCCN（LCのコントロール番号）もあわせて入力し、2011年7月に遡及入力が完了
　→ Web NDL Authorities においてLCCNを用いたLCSHとのリンク

59

5. NDLSHの実務と維持管理 > BSHとの連携

・2004年改訂により、適宜、BSHに合わせて標目訂正または「を見よ」参照へ記入

・平成21年度（2009年）書誌調整連絡会議における意見交換を踏まえ、本格的なデータ連携作業を開始
　BSHをNDLSHの「を見よ」参照へ記入
　例）NDLSH：LAN
　　BSH：構内情報通信システム
　NDLSHにないBSHを、NDLSHとして新設
　例）　青汁

60

6. 件名標目の今日的な意義と課題

・NDLSHの汎用化

・国際的モデルからの検証

・事前結合方式の是非

・主題分析

61

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > NDLSHの汎用化

・NDL内での汎用化：適用資料群の拡大（再掲）

≪…現状において「国立国会図書館件名標目表（NDLSH）」や「日本十進分類法（NDC）」による標目付与を行っていない資料群への付与を行う…≫

「国立国会図書館の書誌データ作成・提供の新展開（2013）」
http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/shintenkai2013.pdf

62

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > NDLSHの汎用化

・国内における汎用化（再掲）

・平成21年度（2009年）書誌調整連絡会議での意見交換等を踏まえて、NDLSHとBSHとの組織的な連携について、NDLからJLAへ検討を依頼したが、現在JLAで検討が止まっている

・そもそも日本の図書館目録では件名標目は普及していない

63

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > NDLSHの汎用化

・国内における汎用化（再掲）

・例えば、LCは共同目録作成プログラムのもと典拠の共同作成を行っており、LCSHについては、SACO（Subject Authority Cooperative Program）を進めている。

このように、関係機関とNDLSHの共同作成を行えないだろうか？
NDLSHとBSHの完全統合が無理だとしても、せめて新設標目分の統一化はできないだろうか？

64

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 国際的モデルからの検証

≪記述目録法については、国際的な会議などの場で合意された指針があるが、主題目録法についてはそのようなものはないといえよう。…
…件名法というものがあるとしたら、やはり諸々の学説や各種件名標目表による実践を、最大公約数的に集約するほかあるまい。≫

『図書館ハンドブック　第6版補訂版』（日本図書館協会、2010年）

しかしながら…

65

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 国際的モデルからの検証

・FRSAD（Functional Requirements for Subject Authority Data ）の刊行、2011年

・FRBR、FRADに続いてIFLAから公表された、主題典拠データの機能要件

・FRBR及びFRADを踏まえて、RDAが策定され、またNCR改訂が進められているように、FRSADを踏まえて各国の件名標目表・件名典拠データはレヴューされるのか？

66

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 国際的モデルからの検証（参考）

・IFLA分類・索引分科会サテライト・ミーティング
“Beyond libraries – subject metadata in the digital environment and semantic web”
（2012年8月17日及び18日、エストニア、タリン）
http://www.nlib.ee/tallinnsatellite

・主題メタデータについて、Linked Dataとしての提供、フィクションやデジタル・コレクション等様々な資料群への適用事例等13の発表

・デジタル環境やセマンティック・ウェブにおける統制主題語彙の重要性

67

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 事前結合方式の是非

・“Library of Congress Subject Headings Pre- vs. Post-Coordination and Related Issues”
（LC、Cataloging Policy and Support Office 2007）
http://www.loc.gov/catdir/cpso/pre_vs_post.pdf

・ The Policy and Standards Division’s Progress on the Recommendations made in “Library of Congress Subject Headings Pre- vs. Post-Coordination and Related Issues”
（ LC、Policy and Standards Division 2010）
http://www.loc.gov/catdir/cpso/pre_vs_postupdate.pdf

68

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 事前結合方式の是非

（LCにおける主な論点）
・欠点：複雑、利用者に難解、作成コスト高

・利点：文脈の提供、用語間のあいまいさの排除、検索方法の示唆、正確性、ブラウズ表示等

・検索語結合による利点のため事前結合方式を継続

・細目の形式や適用方法について見直しを進める

69

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 事前結合方式の是非

・OCLC FAST (Faceted Application of Subject Terminology) http://www.oclc.org/research/activities/fast.html

・LCSHの豊富なセマンティクス（語彙）はそのままに、複雑なシンタクスを簡略化
→ 地名細目、時代細目、形式細目を分割

・ダブリンコア等のメタデータとの互換性

70

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 事前結合方式の是非

≪細目を結びつけていく事前結合方式は、一定のルールに則したコトバの連なりの中で、主題の多面性を柔軟に表現することができます。事前結合方式はまた、主題によってアプローチしたい利用者を、膨大な資料の中で、より的確な方向へと導く仕組みでもあり、そこにこそ件名標目の可能性の中心があるといえるのではないでしょうか。≫

「事前結合方式―件名標目の可能性の中心」
（NDL書誌情報ニュースレター 2009年4号掲載）
http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/2009_4/index.html#06

71

6. 件名標目の今日的な意義と課題 > 主題分析

・件名標目は資料の主題分析をした上で付与される

・件名標目の用語自体のみならず、主題分析の仕方や標目の付与方法が検索等に大きく影響する

・例えば、要約的主題の是非
伝統的に主題目録法における主題は要約的に把握する（LCSHやRAMEAUも概ね同様）

72

6. 件名標目の今日的な意義と課題 ＞ 主題分析

・要約的主題

全般　件名標目付与指針

件名標目の付与

- 資料の主題を把握し、その資料全体の主題を適切に表現する件名標目を付与する。
- 資料の内容を分析する際には、以下のような情報を手がかりとする。

・タイトル
・目次
・序文、後書き、解説文
・帯・カバー等
・本文
・同一著者のその他の著作
・資料中の参考文献
・参考図書、インターネット情報（以下、参考図書類）
・類似した資料への件名標目付与実績

- 資料の内容を分析した上で、その内容全体を最も的確に要約して表す件名標目を選択して付与する。あるいは、資料の中で最も重要なトピックに対する件名標目を選択して付与する。
- つまり、個々の細かい内容やトピックについて個別に件名標目を付与するのではなく、資料全体として「何について書かれているか」を把握して、件名標目を付与する。

「国立国会図書館件名作業指針」再掲

73

6. 件名標目の今日的な意義と課題 ＞ 主題分析

・例えば、「三つまで」の是非

【件名標目の数】

- 必要に応じ、複数の件名標目を付与することができる。付与数に制限はないが、1から3の範囲内で付与することを標準とする。
- 複数の主題を扱っている場合、おおむね三つまでは個々の件名標目を付与し、それより多い場合は、上位概念を表す件名標目を付与する。

個人名件名新設・付与基準

- 個人伝記、特定個人に関する資料、個人の記念論文集については、その対象となっている主要な個人名を件名標目とする。その採用は最大三つまでとする。ただし、人名多数の場合は、個人名件名ではなく、普通件名を付与する。
- 個人名標目の形式については、「個人名標目の選択・形式基準 3」による。

「国立国会図書館件名作業指針」

74

6. 件名標目の今日的な意義と課題 ＞ 主題分析

≪目録法のある大家はこう言っています。
当然のことながら、資料の内容の解釈において、目録作業者間に相違があり、そして、時に、異なる時間に同一の著作を読んだ同一の個人でさえ、その内容について同一の判断を下さないかもしれない。*Chan, Lois Mai. Library of Congress subject headings : principles and application. 4th ed. Libraries Unlimited　2005　p.173
つまり、主題目録作業の「分析」の過程は、作業者の主観的要素に左右されるところがあるのです。≫

「主題検索のしくみ　本をテーマで探すには」
（国立国会図書館月報 2010年6月号）
http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3050782_po_geppo1006.pdf?contentNo=1

75

おわりに

それでは、主題分析や件名標目の付与は、機械によって自動化すればよいのか

そもそも件名標目は必要なのか

件名標目の今日的な意義と課題について、これからも、皆さんと一緒に考えていきたい

76

トピックス　群馬県立女子大学

「アメリカンシェルフ」をオープンしました

オープンしたアメリカンシェルフコーナー

７月29日、本学附属図書館内に「アメリカンシェルフ」がオープンしました。

「アメリカンシェルフ」とは、米国国務省のプロジェクトにより設置された「アメリカに関する本棚」です。アメリカの歴史・文化・価値観への理解を促進し、アメリカについて学ぶ機会を提供することを目的として、日本では入手することが難しい洋書や留学情報などが寄贈されています。

本学はアメリカ研究に関する教育課程が開設されており、海外留学に積極的に取り組んでいること、県民公開講座・授業など地域貢献に努めていることが評価され、同プロジェクトの提携先に選ばれました。

図書館１階に常設の「アメリカンシェルフコーナー」を設けました。アメリカの社会・文化、政治経済、アート、英語教育、留学情報など現在200冊ほどの書籍が配架されています。本学学生、教職員のほか、県民の皆様もご利用できます。

また、オープンを記念して「アメリカを知ろう！」と題した企画展示コーナーを設けました。本学の所蔵するアメリカに関する書籍をテーマ別に展示したほか、「アメリカに渡った幕末・明治の上州人」や「アメリカと群馬県の姉妹都市」のマップを作成し紹介しました。

企画展示コーナー「アメリカを知ろう！」

トピックス　群　馬　大　学

理工学図書館リニューアルオープン

昨年度、改修工事を行い、平成25年４月８日にリニューアルオープンとなりました。ラーニングコモンズや多目的ホール、リフレッシュコーナーなど施設も充実し、たいへん明るく奇麗になりました。サービスデスクでは、プロジェクターやスクリーン等のプレゼンテーション用機器も貸し出しています。ぜひ一度ご覧ください。

■新しい図書館はここが変わりました！

１Ｆリフレッシュコーナー

カップ飲料の自動販売機があり、飲食できるエリアです。

１Ｆラーニングコモンズ

テーブルを自由に組み合わせて、グループ学習ができます。

学修室（６室）

グループ学習、ミーティングに最適な部屋です。

１Ｆ図書室

理工学系の図書を閲覧できます。

２Ｆ多目的ホール

プレゼンテーション機器が完備された小ホールです。

２Ｆ閲覧室

１人用デスク、カウンター席を新設しました。

２Ｆクワイエットスタディゾーン

一人静かに集中したい人の自習スペースです。

３Ｆコンピュータ演習室Ｂ

端末が60台用意された演習室です。

４Ｆコンピュータ演習室Ａ

端末が120台用意された演習室です。

編　集　後　記

日本最高気温41°Ｃを記録した今夏。各図書館は盛況なのではないでしょうか？

こんな時、図書館を再発見してもらえるチャンスかもしれません。

ラーニングコモンズ等、これからの大学・短大図書館の新たな展開や工夫を、会報でお知らせできたらと考えています。